土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　平成30年度　一級河川　江の川水系　下領家右下谷通常砂防工事に伴う測量設計業務委託(地質調査)

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.4	**調査位置**	広島県庄原市総領町下領家　地内			**北緯**	34° 47′ 11.9707″
発注機関	広島県北部建設事務所　庄原支所			**調査期間**	2019年　1月 18日 ～ 2019年　1月 22日	**東経**	133° 04′ 24.2734″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**		**ボーリング責任者**	
孔口標高	T.P. 324.20m	**角度**	180° 上下 90° 0° 0°	**方位**	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 16°	**使用機種**	
総削孔長	6.00m							**試錐機**	東邦地下工機　D1-C
								エンジン	ヤンマー　NFD-12	**ポンプ**	東邦地下工機　BG3-C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
1	322.60	1.60		礫混じり砂質粘土		暗褐		中位	新生代第四紀	土石流堆積物に該当。 やや有機質な細粒土と小岩片の混合物状をなす。礫分は≦10mm以下を主体に，最大40mmに達す。1mの貫入試料は，含水中位～低い。	01/23 1.27
2	321.70	2.50		玉石混じり粘土質砂		暗褐	rd2			土石流堆積物に該当。連続コア長10～12cmの玉石分を混入する。マトリクスは有機質な土分を含んだ細礫分を主体とする。2mの貫入試料は高含水である。	
	321.30	2.90		強風化安山岩		褐					
3	320.55	3.65		強風化安山岩		黄灰			中生代白亜紀	小岩片の集合体様であり，岩組織は不明瞭である。土分がほとんど認められないことから風化土と判断したが，堆積層の可能性を完全に否定しない。DM級岩盤に相当する。	01/22 3.21
4				風化安山岩		青灰～黄灰				角礫状コアを呈す。岩片は中硬質であるが，貫入試験は受け付ける。割れ目沿いは強く劣化している。DH級岩盤に相当する。3.6m付近に粒状組織を認める。	
5	318.20	6.00								短柱～岩片状コアを呈す。岩芯風化と強い割れ目沿い風化を伴う。岩片は中硬質～やや軟質な程度であり，貫入試験はほぼ受け付けない。割れ目はランダムに発達し，例外なく砕片化を伴う。CL級岩盤に相当する。4.4～4.85m間，ごく細粒の粒状組織を認める。5.6m以深，モザイク状の自破砕組織を認める。	
6											
7											

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
6	1.15	1	1	4	6/300	220	20
	1.45	150	50				
9	2.15	3	2	4	9/300		
	2.45						
68	3.15	16	27	7/20	50/220		
	3.37	50/20					
750	4.00				50/20		
	4.02						
	5.00	貫入不能			50/0		
	5.00						
	6.00	貫入不能			50/0		
	6.00						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					1/18
					1/21
					1/22